

要配慮者支援について

突然の災害に襲われたときに、被害を受けやすいのは高齢者や子ども、障がい者、傷病者、外国人など、周囲からなんらかの手助けが必要になる人（要配慮者）です。こうした要配慮者の立場に立って、災害発生時には積極的に支援しましょう。

要配慮者とは



災害の危険を察知することが困難である。

自分の身に危険が差し迫っていても、支援者に助けを求めることができない。もしくは困難である。

危険を知らせる情報を受け取ることや正しく理解することができない、もしくは困難である。

危険を知らせる情報を受け取っても、それに対応して行動することができない、もしくは困難である。

平常時の支援

要配慮者の身になって防災環境を点検する

放置自転車などが車いす利用者の避難の妨げにならないよう、要配慮者の身になって地域の環境を確認し、改善しましょう。

日頃から積極的なコミュニケーションを

災害時にスムーズに支援活動をするためには、要配慮者とのコミュニケーションを日常的に図っておくことが大切です。

防災訓練に参加してもらおう

要配慮者や家族などの支援者も一緒に防災訓練に参加することによって、災害時に必要な支援がより明確になり、解決すべき課題も見えてくるでしょう。

災害時の支援

適切に情報を伝えて安心させよう

耳の不自由な人とは筆談する、日本語を理解できない外国人には身振り手振りを交えるなど、相手に応じた柔軟な方法を用いて今後の見通しなどを伝えましょう。

避難するときはしっかり誘導しよう

自分の体を守る行動が難しい要配慮者の場合、素早く頭などを保護し、安全な場所に誘導しましょう。

困ったときこそ温かい気持ちで接しよう

非常時だからこそ、避難所などでは特に頻繁に声を掛けて、孤立させないようにしましょう。

避難誘導の注意

外国人

身振り手振りを交えて話し掛け、孤立させないようにする。



高齢者や傷病者

複数の支援者で対応する。緊急のときは背負って避難する。



目の不自由な人

杖を持つ手と反対側の肘の辺りを軽く触れるか、腕や肩を貸して半歩くらい前をゆっくり進む。階段などの障害物の存在を、その手前で伝えながら誘導する。



車いすを利用している人

階段では2人以上で援助する。上りは前向き、下りは後ろ向きで移動し、恐怖感を与えないようにする。支援者が1人の場合はおんぶひもなどを利用し、背負って避難する。



耳の不自由な人

口を大きく動かし、はっきりと話す。身振りや筆談などで正確な情報を伝える。



自主防災組織



自主防災組織で安心・安全な地域づくり

災害はいつ何時発生するか分かりません、災害の規模によっては公共機関による支援・救出・救護が期待できないことがありますので、まずは自分の身は自分で守る行動(自助)をとりましょう。

また、このような事態が発生したときに、地域内で災害時の要援護者となる高齢者・身体障がい者・介助の必要な方に救助の手を差し伸べることができるのは、身近にいる地域のみなさんです。

「自分たちのまちは自分たちで守る」という、地域住民の連携に基づき、結成される防災組織のことを「自主防災組織」といい、災害の発生時に、住民が連携を取り、互いの身を守るための防災活動を共助といいます。

自主防災組織を結成し、災害時の地域における役割分担などの体制を整えておくとともに、災害時の要援護者・避難経路などの情報を共有化することで、一人でも多くの命を守ることができます。今後の防災対策は、地域のみなさんが行政や各防災機関(公助)と一緒にこなっていくことが重要です。

自分の身は自分で守る(自助)

小城市防災ハザードマップなどから災害に関する知識を身に着け、災害に対する準備をしてください。

自助のとりくみ

- 自宅、職場、学校のまわりや通勤路、通学路の土砂災害警戒区域・浸水想定区域・揺れやすさなどを確認しておきましょう。
- いざという時の避難所を確認しておきましょう。
- 非常時持出品、備蓄品を用意しておきましょう。
- 災害時の情報の入手方法を確認しておきましょう。



自主防災組織で地域を守る(共助)

自主防災組織とは、地域の皆さんが災害に対して協力し合う組織です。

自主防災組織を結成し、地域防災活動をおこなうことで災害に強いまちづくりを目指しましょう。

平常時の活動

- 作ろう、参加しよう、育てよう!
隣近所や行政区などで、互いに助け合い、協力し合える体制づくりをしましょう。
- 地域を点検しよう!
 - ・ 消火栓や防火水槽の近くに、障害物はありませんか?
 - ・ 避難場所を皆さんが知っていますか?
 - ・ 避難経路に危険な場所はありませんか?



- みんなで学ぼう!
防災に関する知識を身につけましょう。想定される災害と対応について話し合しましょう。



- 訓練をしよう!
 - ・ 初期消火訓練
 - ・ 避難所の開設・運営訓練
 - ・ 避難者の誘導訓練



災害時の活動

- 初期消火活動 身の安全を第一に考え、消火器などを用いた初期消火の実施
- 避難誘導支援 高齢者や障がいをお持ちの方々などへ避難誘導の支援
- 救出・救護活動 まず身の安全を確保し、その後に被災者の救出や救護活動の支援
- 情報の収集・伝達 災害に関する正しい情報を収集・伝達する
- 避難所の支援 水や食料などの配給や炊き出しなどを活動支援



防災訓練



自主防災組織リーダー研修会

地震・台風・豪雨被害に対し、地域防災の強化をめざし、国・県より地域住民主体による自主防災組織の活動が強く望まれており、みなさまの地域の組織作りを市では啓蒙・普及をおこなっております。
※詳しくは、市ホームページまたは、市防災対策課までお問い合わせください。